



Save The Earth

地球温暖化について

私

私たちは毎日紙をふんだんに使っています。終戦前後、紙の不自由な時代に学校に通っていた私たちは紙の有難さを充分知っているのに、今でもメモ用紙や計算用紙などなるべく裏紙を使ったりして極力無駄使いたないように心掛けています。しかし新聞の折り込みや商品の包み紙など毎月ひと抱え処分しています。パソコンのプリンター用紙A4型500枚が200円代で買うことができます。良質の用紙を気の毒な程安価で買うことができます。それは本当に有難いことではありますが、考えてみるとどこかの森林が伐採されパルプとなり紙が生産されているということ。日本の使い捨て割り箸文化がモンゴルやロシアの森林に影響を及ぼし黄砂現象の拡大の原因のひとつになっているということ。前記に書いたことがあります。

現在いちばん心配なことは世界の状況をみると、森林、草原などの緑地帯が物凄いスピードで蝕まれているということです。日本は温帯モンスーン地域に位置し、梅雨があり、台風が豊かな水をもたらします。植物の生育も良く、しかも木材関係は大部分は輸入に頼っ

ているので古里の山々が伐採によって荒廃する心配は今のところありません。しかし外に目を向けると、人類はすさまじい勢いで森林を切り開いていることが分かります。

国連食糧農業機関（FAO）の統計によると、世界の森林の面積は1990～2005年の15年間に31%も減ったと報告しています。これは1秒間にテニスコート15枚分が消えているということになります。森林の減少の原因は木材やパルプの原料、燃料として伐採、焼畑農業として現地人の主食のキャッサバやタロイモの栽培などです。焼畑もかつては栽培が終わると又他の区画で畑を焼いて新たな畑を作って移動し、その間に元の畑は再生し繰り返し利用してきましたが、最近ではたべる物を作るのではなく、商品として売るための作物、つまり先進国がバイオ燃料として利用するようになり、焼畑農場の規模も大きくなり再生ができないまま森林は減っていくようになったということです。

日本も建設材やパルプの原料として針葉樹林や熱帯林を多量に買い取り世界の森林減少に多大な影響を与えています。例えば安い労賃と環境規則の緩い途上国に進出した日本の企業は工業用地を確保

するために大規模な森林伐採を行います。伐採よりもっと荒っぽいやりかたでは、商業用地や住宅用地を作るために、ガソリンや灯油を撒いて焼却してしまうというような方法も最近行われていると聞きます。手間がかからず安価な方法で土地の開発ができるからです。日本の紙の生産量はアメリカ中国について世界第三位です。1人当たりの消費量は年間247キロ、世界の平均が58キロです。世界中の人達が同じように紙を使うならば地球上の森林は間もなく消えてしまいはしないでしょうか。紙の無駄使いをしないで計画的に伐採された木材パルプを原料とした認証用紙を使うよう心掛けましょう。世界的な認証マーク「FSC」が森林環境保全に配慮した木材パルプを原料としたマークです。

歴史調査の楽しみ方

日平城跡

七

月末で、西側主軸尾根の測量調査に王手が掛かりました。現場は、日平城の西端で、Ⅲ郭のベースキャンプからの行き帰りに時間がかかり、汗びっしょりになります。でも、調査中、標高250mの尾根に心地良い谷風が吹くと、気分はまさに、「菊水の軽井沢」です。ツクツクボウシの大合唱もあり、「もう、晩秋かな」と錯覚する程です。

本題に入ります。(E)は、小山Fと小山Gに挟まれた窪地です。南縁を山道が通り、底部は、3段に分かれています。全体として、長さ5m・幅3mの「武者溜まり」が確保されています。

小山Gは、長さ19m・幅5.5mの区画で、中央部に大岩が密集しています。南縁の山道に、第2の城門と推定される(ハ)もあり、特異な場所です。小屋程度の建物も考えられます。

小山Hは、長さ26m・幅17mの平場で、縁を246mの等高線が廻ります。ただし、中央部の南寄りには、長さ9.2m・幅5mの範囲が、やや高

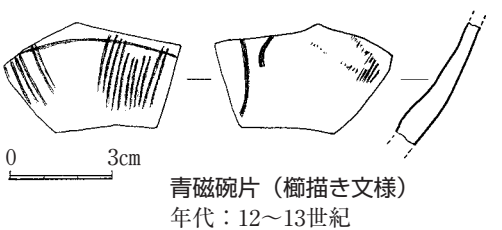
くなっています。後世に崩壊した土塁の基底部と思われます。なお、この箇所を調査中に、日平集落からの話声が、はつきりと聞こえました。これで、有事の際には、村から山城へ意思伝達できた事が分かりました。

7月の調査では、城門を意識しながら、西側主軸尾根を歩きました。結果として、山道は、岩山や小山に阻まれて、簡単に進めない仕組みになっている事を再認識しました。

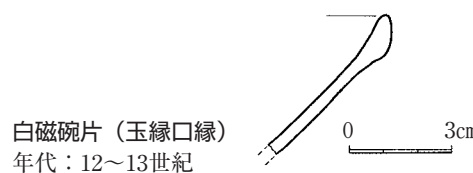
次に、城内から採取した遺物を説明します。ざっくり言って、中国から輸入された良質な磁器が眼を引きます。青磁片や白磁片で、期的には、すべて、12世紀から13世紀のもので、日本では、鎌倉時代です。

そうになると、日平城の年代が問題になります。戦国時代の山城の目安とされる中国からの輸入染付が、今のところ、一片も見つかっていません。この事だけを考えれば、日平城は、鎌倉時代の山城との見方が出来るのです。

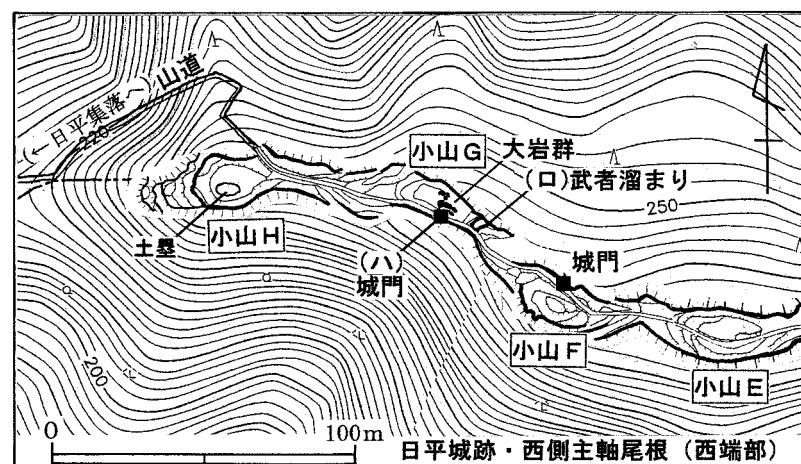
でも、「鎌倉時代には、城郭と呼べる構造物は無かった」というのが定説



青磁碗片（櫛描き文様）
年代：12～13世紀



白磁碗片（玉縁口縁）
年代：12～13世紀



います（これについては、以前に詳しくお話をしました）。と言うことは、16世紀末に、日平城は、確かに存在したのです。このように遺物と文献記録には大きな隔たりがあります。歴史研究の難しい一面です。

大田 幸博

（元・菊水町史編纂委員会副委員長）